

情報社会の影の部分の実態と求められる情報教育
～ 情報社会の波に押し流されない児童・生徒を育成するために～

学校教育専攻

学校教育専修（教育内容・方法論）

4953 佐々木 朗

1. 研究の目的

情報化社会を迎え、インターネットは各家庭にも普及してきた。その影で、それに関わる反社会的な問題も数多く起こってきた。これらの問題を検討するために、現在までの社会の情報化の流れ、学校における情報教育の流れについて概観した。また、筆者が大学でコンピュータを学び、二十数年の教職経験の中で実践してきた情報教育、そして渡島の研究の第一線にたって事業を展開してきた渡島情報教育研究会における活動にも触れた。

これらの研究を通して、情報教育の目的である情報活用能力、とりわけ「情報社会に参画する態度」の大切さを吟味し、情報社会の影の部分へ教育の光を当てていかなければならないことを痛感した。これらをふまえて、情報活用能力を身につけ、情報機器を効果的に活用し、情報化社会を生き抜き、さらに、情報モラルを十分に身につけた児童・生徒をどのように育成していくかを実践的にまとめ、学校教育に寄与していくことが本研究の目的である。

2. 方法

(1)この地域の児童・生徒及び保護者へのアンケート調査の実施

地域に根ざした情報教育を推進するために、アンケートにより、この地域の子どもと保護者について携帯電話及びパソコン・インターネットに関わる実態及び意識を調査した。対象は、道南の十数校の4年生以上の小学生並びに中学生、及びその保護者とし、携帯電話やパソコンの所持の有無、料金、利用方法、必要性、問題点などを調べた。

(2)「個人情報の保護」に関する授業実践

個人情報自体が価値を持つ時代の今、身近にも子どもたちに二セ電話で、友だちの住所や電話番号などの個人情報を聞きだそうとする事例が発生している。また、インターネット上での個人情報の扱いについてあわせて指導していくため、情報モラル教育を行い、「個人情報の保護」に関する指導を行った。

3. 結果と考察

(1)アンケート調査

保護者及び児童・生徒それぞれ500件以上のデータを回収した。その結果、携帯電話は、中3の女生徒で5割、小学生でも1割所持していることがわかった。パソコンは7割程度の家庭で所持していることがわかった。このように、この地域においてもパソコン、携帯電話は普及しており、それに関わる課題や問題点もあがってきた。携帯電話の料金や使い

方、インターネットでは、有害サイトや出会い系サイトへ接続することへの心配、そしてこれら情報機器利用に対する躰のあり方などである。これらに対しては、まず家庭での指導が大切であることがわかった。そして学校においても教職員の共通理解のもと、情報モラル教育について、取り組んでいかなければならないことがわかった。

さらに、「インターネット環境で心配すること」という質問に対し「個人情報の保護」を選択する割合が高かった。(中学生 51%、保護者 47%) また、昨今ニセ電話で友だちの情報を聞きだそうという事例が多いこともふまえ、「個人情報の保護」については早急に取り組んでいかなければならない課題ととらえ、授業実践により子どもの変容を検証した。

(2)授業実践

授業は、総合的な学習の時間の情報教育という枠で行った。最初に、個人情報の概念について指導し、ニセ電話のシミュレーションを使い、その対応方法を話し合った。子どもたちの中には、既にこのような経験した児童もあり、「親に代わってもらおう」、「親のいる時、かけなおしてもらおう」、「絶対にしゃべらない」など積極的な意見がでた。また、プレゼント応募と称して住所や氏名を送信させる自作のホームページを作り、子どもたちにインターネット上で個人情報を送信するシミュレーションも行った。インターネットでの個人情報送信の危険性を勉強したすぐ後だけあって、子どもたちの中にも「送信ボタンを押す時ドキドキしちゃった。」などの声が聞かれた。送信された結果は電子メールで集計され一覧表にして提示した。さらにデータが簡単に第三者に渡ることを実演してみせた。授業の中で、ネットでの個人情報入力には、特段に気をつけるように指導した。授業の最後に子どもたちが残したワークシートには、「ちょっとこわかったけど、本当にためになった。」などという感想が多く寄せられた。子どもたちが大人になっても、送信ボタンをクリックする時、授業で味わった「こわさ」が心に残ってくれることと確信する。

授業実践をとおして、子どもたちは、情報の信頼性、妥当性についての理解が深まったことが、また、特にインターネットを使って情報を発信する時の心構えや態度に大きな変容があったことが認められた。

4. 今後の課題

本研究により、携帯電話やインターネットに関わる犯罪や事件は決して他人事ではなく、身近なところでも起こりうる問題であるということがわかった。一方、学校においては、情報教育に対する教職員間の意識の違いが大きく、教育実践も教師間・学校間で大きな格差があるというのが現状であり、その解消が今後の大きな課題となる。

社会の情報化は今後ますます進んでいく。このような中、学校だけが立ち遅れてはいけぬ。子どもたちにはその時代のニーズに応えた教育をしていかなければならない。そのために、情報教育を担当する者の一人として、情報教育に対する教職員の意識を高揚させるため、情報提供をしていくと共に研修の機会などの充実を図っていきたい。

指導教員 山崎 正吉